

ご法話会（お聴聞の会）推進規定

滋賀組 正覚寺

1. 目的

お聴聞のコミュニティが健全に機能していくよう育成し、維持することを目的とする。

2. ご法話会（お聴聞の会）推進方針の策定

- (1) 布教使（住職を含む）の布教力量を開発する。
- (2) 布教現場を発掘し、活性化する。
- (3) お同行に如来様のお育てに与って戴き、次代に継承して戴く。
- (4) 現代社会・海外開教最前線に有効な教学大系を発見していく。

3. ご法話会（お聴聞の会）推進要件各論

- (1) 布教使（住職を含む）の布教力量を開発し、維持する。

毎月第一日曜開催の仏教壮年会例会をご法話会（お聴聞の会）に格上げする。

一人の若手布教使と二人三脚で住職（布教使）が出講し実演する（1,2）。

質問を受付け（3）反省会を設ける（1,2）。

備考) 寺院所属布教使でなければ、今日布教出講の機会が著しく狭い宗派としての課題に照らし本件は、前向きに取り組みさえすれば、解決案の一つになるのではないかと期待される。

1) 住職は、お世話する立場も含め自ら布教力量開発の気概を持つ。

2) 質問により、お同行には参加形式のお聴聞をして戴く。

- (2) 布教現場を発掘し、活性化する。

毎月の仏壮例会を若手布教使に布教現場として提供する。

お同行のご自宅でのご法話会開催を進めていく。法事等でよい御法話をし勧めていく。

若手布教使には、年1回適当なご法座に本出講して戴き、現場を活性化する。

- (3) お同行に如来様のお育てに与って戴き、時代に継承して戴く。

前記ご法話会により、新たなお同行の参加を促すことができる。

役員OBにも「長老のお聴聞の姿はお同行に求められる姿である」と訴え案内する。

仏壮例会が母体であるが、ご婦人にもご参加戴くようご案内する。

地域のお聴聞のコミュニティ健全育成の為に、他院のお同行にもご案内していく。

- (4) 現代社会・海外開教最前線布教に有効な教学大系を発見していく。

ご法話会を通して、現代人に有効な御法話構成・手段を発掘する。

ご常教と相容れない要件が発見された場合、現代社会布教上の本質的課題として研究する。

ウェブサイトのメインコンテンツ“りびんぐらいぶず”に公開し、世の智慧を仰いでいく。

重要課題は、和上様方にお伺いし、総合研究所に研究課題としてお尋ねし回答を得る。

成果は、学会発表していく。例) 龍谷教学会議等。

4. 年度計画の策定、実施

年度開催計画を策定し、実施する。本タイトルに係る重点目標は、下記の通りである。

1. **仏教壮年会主催のご法話会(住職と若手布教使が出講)を年間十回以上開催し、お聴聞に努めて参ります。**

5. 有効性評価の実施

ご法話会出席状況の評価する（新規・長老参加者数、昨年度比出席者数・率の把握評価）。

他のご法座を含めお同行の受け止め方（反響）を把握する。

メインコンテンツ公開実績に取り纏める。

和上様方に直々にご指導を仰いだ実績を成果に反映していく。

以上